

芸術学

芸術を広く深く探求し
地域、社会、そして世界への貢献を目指す。

伝統工芸のまち、
金沢ならではの環境をいかした
「学び」と「研究」の場を提供します。
芸術をあらゆる視点から深め
多様な領域における専門的研究を可能にし
その成果を世の中に還元できる人材を育てます。



芸術の現代的意義を、グローバルスタンダードの学術研究と領域を超えた横断的なアートワークの実践により探求し社会をリードする

芸術学 ⇒ Sustainable Contemporary Art Practice and Visual Culture Studies (SCAPE)

21世紀の芸術の置かれた複雑多様な社会、経済、文化、環境の問題を理解し、持続可能な社会への希望を発信する実践と視覚文化研究のできる人材を育てます。

1年次

視覚文化史、文化産業学、文化人類学、コミュニティ社会学、科学技術論、市場経営学、持続可能経済学等を横断した現代批評構築や多言語コミュニケーションをスタディスキルの基本として導入します。並行して、市場の現在性に基づく、立体・平面・メディアアート等、多岐に渡る表現形式を媒体とする現代美術領域の実践的理論と創作の探究を行います。

芸術学演習(一)〔グローバル美術理論1〕

芸術学概論

彫刻・工芸・デザイン・映像メディアなどの実技

芸術学演習(一)
〔グローバル美術理論1〕

芸術学における研究・調査・議論・発表に必要なスタディスキルの基礎を身につけます。金沢のローカル文化を通してグローバルな視野で考えるために必要な現代批評と重要なポストコロナル理論を日英語文献で多読し、工房見学などのフィールドワークも行いながら小型プロジェクトを達成します。



梅山窯(中村卓夫)工房見学

芸術学概論

〔多形式表現制作の理論と実践の基本〕

現在の市場性と批評軸を調査し、表現を成立させる多様な社会の背景を理解します。以上をバックボーンとして、ディスカッションやディベートを通しグループワークでの現代美術制作に取り組みます。整合性のある作品とコンセプトで表現の強度を上げる術を学ぶこと、独自性のあるイメージを顕現出来る基盤を作ることが目的です。



実技室内授業風景

学外研修

本専攻の教員には、欧米の美術大学を卒業した者、長く教鞭を執っていた者、作家として海外で活動していた者など、現代の国際的な芸術事情に精通する教員で構成されています。生きたグローバルネットワークを活かし、希望に応じて海外研修等を企画する他、海外留学、アーティストインレジデンス、芸術祭参加などのキャリア形成の架け橋となります。

2年次

1年次の学際的かつ横断的なアプローチによる研究・制作導入に引き続き、ポストコロニアル理論と視覚文化の問題の理解を深める一方、制作プロジェクトを通して多形式を前提とした現代の美術市場傾向を鑑みた「実践」を行います。

芸術学演習(二)

芸術学特講〔グローバル美術理論2〕

絵画・版画・工芸・美術表現などの実技

芸術学演習(二)
〔多形式表現制作の理論と実践の発展〕

ひとつの大きな作品として、時事問題や市場に絡めたテーマ等を選んで企画展を立ち上げます。デザイン(編集、アートディレクション等)、企画(ギャラリスト及プロデュース及学芸員)、制作(アーティスト)の3グループのうちいずれかを選択し、交渉や関わりのある模擬社会の中で展覧会を成立させます。自らの適性を探し、技量のみならず現場力を体得しながら専門性を深化させることが目的の総合学習です。

教育の特色①

自分＝社会の意識を強め、グローバル社会に説得力のある多言語と視覚表現を一体化して発信できる基本的なスタディスキルを養います。

芸術学特講

〔グローバル美術理論2〕

ポストコロニアル理論と文化社会(知の不均衡の力学、国家と人種、表象、ジェンダー、西洋—東洋、東アジアの植民地問題と脱植民、サステナビリティ等)などの批評の視点と方法論を日英語文献の多読を通して学び、議論することで現代の文化社会とアートの問題を考えます。



Guerrilla Girl!金美に登場!



藤田真央「不可分な境界」、
素材：極薄原紙・落水紙、サイズ：可変

学外活動の支援

美術館・ギャラリー・文化財修理工房などの見学も随時行います。国内外学会への参加や発表、海外の研究や創作動向を直に知るためのワークショップ等へ誘導し就職や留学にもつながるネットワーク作りを促進します。また、学生主体による展覧会の企画、読書会、ディスカッショングループ、社会活動などの学外活動を積極的に支援します。



毎田染画工芸の見学(金沢市)

3年次

現代批評と実践の専門性を高め、各自の専門分野を確立します。近現代工芸/デザイン/視覚文化研究領域、現代美術領域—多形式制作及び実践的理論、現代批評及びアートプロジェクト領域、絵画表現領域、美術史研究領域などからゼミを選び、指導を受け、作品制作、プロジェクト企画、展覧会キュレーション、研究論文発表などを行います。

芸術学演習(三)

専門演習

(近現代工芸/デザイン/視覚文化研究領域、現代美術領域—多形式制作及び実践的理論、現代批評及びアートプロジェクト領域、絵画表現領域、美術史研究領域など)

絵画・コンピューターグラフィックスなどの実技

芸術学演習(三)

3年次には、卒業論文の足がかりとなるよう、研究対象に応じたより専門的な演習を行います。また、各自が美術品を購入し、それについて多角的な調査・研究に従事する演習もあります。購入品は国内外の絵画、彫刻から工芸品まで、多種多様です。各自研究成果を口頭で発表し、レポートにまとめ、あわせて学内で購入品の展覧会を開催します。

ゼミの一例 ⇒ 現代美術領域—多形式制作及び実践的理論
現在の市場性と批評軸を調査し、表現を成立させる多様な社会の背景を理解した上で、自己プロデューススキルを習得します。独自性のあるイメージを顕現出来る自己の基盤を強化し、整合性のある作品とコンセプトで表現者としての深度を深めるとともに、企画展示やアーティストインレジデンスなどの野外学習などで現場力をつけ、即戦力として活動できる地盤を作ります。



2021年買い物ゼミの研究展示写真

卒業後の進路

愛知県陶磁資料館、石川県七尾美術館、石川県能登島ガラス美術館、石川県立美術館、石川県輪島漆芸美術館、伊丹市美術館、うつのみや妖精ミュージアム、金沢21世紀美術館、金沢市立中村記念美術館、金沢湯涌夢二館、九州国立博物館、黒部市美術館、公益財団法人鍋島報効会 徴古館、国立工芸館、静岡市美術館、女子美術大学歴史資料展示室、福井市自然史博物館分館、福島県立博物館、敦賀市立博物館、東京国立博物館、東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館、富山県水墨美術館、富山県美術館、豊田市美術館、名古屋市美術館、福井県立美術館、福岡アジア美術館、古川美術館、碧南市藤井達吉現代美術館、北海道立近代美術館、北海道立釧路芸術館、ポーラ美術館、柳宗理記念デザイン研究所、横須賀市美術館、横浜美術館、和歌山県立美術館、ヴァンジ彫刻庭園美術館、リンカーン群歴史協会(アメリカ合衆国)、東京藝術大学、福井大学、和光大学、公立および私立中・高等学校美術教員など〔他大学進学先〕九州大学、京都市立芸術大学、群馬県立女子大学、慶應義塾大学、神戸大学、昭和女子大学、総合研究大学院大学、千葉大学、中京大学、筑波大学、東京学芸大学、東京藝術大学、東京大学、東北大学、ニューヨーク大学、ブレーメン美術大学、ロンドン大学など



カルチュラルスタディーズ国際学会
-Cultural Typhoon 2021 The
'Back' Strikes Back「裏」の逆襲



領域横断ディスカッション
グループ活動「もやっと女」

4年次

3年間に積み上げてきた表現研究、視覚文化研究、市場研究等をもとに確固とした研究意義のあるテーマを各自で選び卒業研究に取り組みます。多形式による作品制作またはアートプロジェクト企画などの実践と論文を組み合わせた研究を完成させ、成果は金沢21世紀美術館での卒業制作展で展示すると同時に公開講演を行います。

芸術学演習(四)

専門演習

(近現代工芸/デザイン/視覚文化研究領域、現代美術領域—多形式制作及び実践的理論、現代批評及びアートプロジェクト領域、絵画表現領域、美術史研究領域など)

卒業研究〔論文/制作〕

芸術学演習(四)

各自が主体的に設定したテーマを担当の指導教員の個人チュートリアルを受けながら発展させ、卒業研究(論文/制作)として完成させます。途中、口頭発表を何度か行うことで客観的な視野を蓄えます。作品制作またはアートプロジェクト企画などの実践と論文を組み合わせた学術的に高度でかつ卒業後に即戦力となる成果を目指します。

教育の特色②

芸術が果たす社会的役割の可能性を、創造的な実践と学際的な芸術学で開拓し、美術作家、批評家、キュレーター、研究者としてリーダーシップがとれる人材を育成します。



2021年卒業研究中間発表-遠山裕菜

ごあいさつ

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。

金沢美術工芸大学芸術学専攻では、理論と実践を通して専門知識や思考力を養い、芸術の諸分野に関する研究を行います。

本展では4年間の集大成として、卒業研究の成果を展示しています。私たちは約1年間に渡り、各々の興味関心に基づいて独自の調査を進めてきました。研究テーマはジャンル、年代問わず様々で、ひとつとして同じものはありません。新型コロナウイルスの影響により実物・現地調査が困難な状況ではありましたが、卒業生一同が研究を遂行し、このような形で展示できたことを非常に嬉しく思います。

本展では、研究の成果をまとめた論文はもちろんのこと、私たちの研究により興味を持っていただきたいという思いから各論文を紹介するパネルも展示しています。

また、今回は展示会に際して卒業生同士で論文を読み、レビューとしてお互いに意見や感想を書き合いました。こちらも参考にしながら、ぜひ論文を読んでみてはいかがでしょうか。

最後に、私たちが研究を進めるにあたってご指導いただいた先先生方や多くの方々にこの場を借りて改めて感謝申し上げます。

令和4年 芸術学専攻4年生一同

研究の方法

研究テーマや調査対象が一人ひとり違うのと同様に、それぞれの調査の進め方も多様多様です。今回は、約1年間に及ぶ卒業研究の中で、私たちが行った主な研究の方法をいくつかご紹介します。

読む



自分が研究したい内容が書かれた文献や先行研究から情報を得る。

聞く



情報を知る人・研究者に質問やインタビューをする。

見る



作品や映像、当時の貴重な原物資料を自分の目で確認する。

体験する



ワークショップやオンラインイベントに参加して体験する。

行く

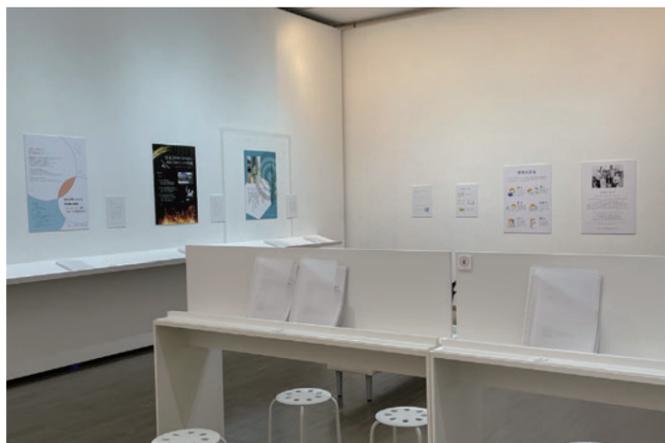


研究対象の建物や場所、芸術祭などに実際に訪れて調査する。

頼る



研究に行き詰まったら指導担当の教員まで相談に行く。



卒業制作展 展示の様子

卒業制作展 発表スケジュール

2021年度
金沢美術工芸大学 芸術学専攻
卒業研究発表会
2022.2.26(土)
金沢21世紀美術館 レクチャーホール

※新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、入場の際に長巻と連絡先をご記入いただきます。
(長巻が脱落した場合の連絡先はQRコードのリンク先を参照してください)

※学芸員の人数をより多くお願いいたします。

※入場者がレクチャーホールの収容人数を超えた場合、入場を制限する場合がございます。

時間	発表者	発表内容
10:00	伊藤 結希	東京における教育環境の切り変わりに伴う幼稚園の発展 —施設・経路から幼稚園の発展まで—
10:30	鈴木 紅羽	日本刀の在り方の変化と、美術工芸品としての存続 —
11:10	滝野澤 風花	染め分野におけるオールオーバー概念 —オールオーバー概念を用いた工芸領域の拡大—
11:40	湯山 裕美	毎日の生活に寄り添った山本潤の自由画教育活動 —異文化芸術実践を軸として—
12:10	新留 璃子	「恩物」を通して見る20世紀前半の芸術表現 —日本におけるフレーベル思想の受容と文化への影響を中心として—
13:40	松田 真里和	ザオアシムと洗剤
14:10	松田 真里和	洗剤からみる人々の生活様式 —洗剤と洗剤の歴史を中心に—

卒業制作展 発表スケジュール

日本刀の在り方の変化と、美術工芸品としての存続

芸術学専攻4年 1818003 鈴木紅羽

章立て

はじめに

第1章 日本刀の受容の変化
第1節 日本刀が持つ複数の役割・意味
第2節 時代による日本刀の需要の変化

第2章 幕末・明治期の外国人から見た日本刀
第1節 Via & The Metの日本刀コレクション
第2節 コレクションの傾向の考察

第3章 現在の日本の若者から見た日本刀
第1節 美術工芸品としての日本刀の現状
第2節 いわゆる「刀剣ブーム」について
第3節 鉄の展示館での取り組み

おわりに

鈴木紅羽

鈴木紅羽

「恩物」を通して見る 20世紀前半の芸術表現

—日本におけるフレーベル思想の受容と文化への影響を中心として—

金沢美術工芸大学 芸術学専攻4年 1818009 新留璃子

序章 本研究の概要とフレーベル研究の現状
第1節 研究目的
第2節 研究の動機と背景
第3節 研究意義
第4節 研究方法

第一章 フレーベルの教育思想と恩物
第1節 生涯と思想の形成
第2節 幼児教育の理念
第3節 恩物の体系と内容
第4節 芸術表現と関連する教育理念の検討

第二章 日本におけるフレーベル思想の受容と浸透
第1節 幼稚園の開設と恩物の導入
第2節 恩物の批判—明治30年代以降
第3節 恩物の改良と積木の普及—フレーベル館の活動

第三章 フレーベル思想の日本の文化への影響
第1節 先行研究の検討
① Inventing KINDERGARTENにおける指摘
② 岡崎純二「繪象の力」での指摘
第2節 雑誌に見る恩物の表現の変遷—「月映」での活動
① 雑誌にみる恩物の表現—「感情」での活動
② 恩物とフレーベル思想の接点
第3節 児童向け雑誌の刊行
① 児童雑誌「赤い鳥」と山本潤の自由画教育活動
② 雑誌誌「コドモノクニ」と食糧第三の教育観

終章 今後のフレーベル研究に向けて
第1節 結論
第2節 今後の課題

新留璃子

新留璃子

染め分野における 評価軸の構築

—オールオーバー概念を用いた工芸領域の拡大—

染め分野は工芸領域の発展に立ち、工業と芸術の境界を曖昧にする。この類似点は工業の一要素として定義の現状を捉えつつ、工芸領域が改めて再評価されるべきであると考えたからです。

卒業論文では工業の中から染色分野を、特許から染色のオールオーバー概念を選択しました。染めとオールオーバーの「交わり」を探し、その観点から工芸作品を再考します。

目次

第1章 緒言
1-1 研究目的
1-2 研究動機
1-3 研究意義
第2章 フレーベルの教育思想と恩物
2-1 オールオーバー
2-1-1 概要
2-1-2 体系的整理
2-2 恩物
2-3 恩物とフレーベル館の活動
第3章 日本におけるフレーベル思想の受容と浸透
3-1 オールオーバーの導入
3-1-1 オールオーバーの導入
3-1-2 恩物の批判—明治30年代以降
3-1-3 オールオーバーの普及
3-2 雑誌に見る恩物の表現の変遷
3-2-1 雑誌にみる恩物の表現
3-2-2 雑誌誌「コドモノクニ」と食糧第三の教育観
第4章 児童向け雑誌の刊行
4-1 児童雑誌「赤い鳥」と山本潤の自由画教育活動
4-1-1 雑誌にみる恩物の表現
4-1-2 恩物とフレーベル思想の接点
4-2 雑誌誌「コドモノクニ」と食糧第三の教育観

滝野澤風花

滝野澤風花

洗剤からみる人々の生活様式 —衛生観と洗剤の需要との関わり—

芸術学専攻4年 1818013 松田真里和

序章 洗剤の歴史と洗剤の文化への関わり
第1章 洗剤の歴史
1-1 洗剤の歴史
1-2 洗剤の文化への関わり
1-3 洗剤の文化への関わり
第2章 洗剤の文化への関わり
2-1 洗剤の文化への関わり
2-2 洗剤の文化への関わり
2-3 洗剤の文化への関わり
第3章 洗剤の文化への関わり
3-1 洗剤の文化への関わり
3-2 洗剤の文化への関わり
3-3 洗剤の文化への関わり

松田真里和

松田真里和